

高等学校 2年生 保健体育科学習指導案

令和 6年 11月 14日

高等学校（2）年 30 名

1 単元名 **大単元**「安全な社会生活」 **小単元**（安全な社会の形成）

2 単元について

個人及び社会生活において、様々な事故や災害が発生している。安全な社会を形成するには、事故等の防止に加え、発生に伴う傷害などを軽減することが重要である。そのためには、事故等の発生には人的要因及び環境要因が関わることを踏まえ、個人の取組に加えて社会的な取組が求められることを理解するとともに、危険の予測やその回避の方法を考えることができるようにする必要がある。

このため本内容は、様々な事故等の発生には人的要因と環境要因が関わること、交通事故などの事故防止には、周囲の環境などの把握や適切な行動が必要であること、安全な社会の形成には、個人の安全に関する資質の形成、環境の整備、地域の連携などが必要であること、また、個人が心肺蘇生法を含む応急手当の技能を身に付けることに加え、社会における救急体制の整備を進める必要があることなどを中心に構成している。

3 単元の目標

知識・技能	安全な社会生活について、事故の防止に加え、発生を伴う傷害などを軽減すること、またそのための社会的な取り組みの基礎的な事項及びそれらと生活とのかわりを理解することができるようにする
思考力・判断力・表現力等	安全な社会生活についての危険の予測やその回避の方法などの課題の解決を目指して、知識を活用した学習活動などにより、科学的に考え、判断し、それらを表現できるようにする
学びに向かう力・人間性	安全な社会生活における健康の保持増進に関する課題の解決に役立つ環境と食品の保険、労働と健康に関する活動や対策について関心を持ち、学習活動に意欲的に取り組もうとすることができるようにする

4 生徒の実態と指導観

生徒は、積極的な授業参加が見受けられ、授業の雰囲気はとても良い。授業内でペアワークを行う際に近くの人とスムーズにペアを作り積極的にペアで話し合いを行なっている。しかし、発表をするとなると声が小さくなってしまったりするなど人前が苦手な生徒も多いと感じる。

指導にあたっては、生徒に積極的に授業に参加してもらうために日頃の授業からグループ活動を取り入

れている。グループ活動により自分とは違った意見を知り、また自分で考えたこと思ったことを口に出して発言することなどからコミュニケーション能力を向上することに繋げていきたいと考えている。事故や災害の防止や被害の軽減の方法、対処法を学び理解し、それらを今後の生活とのかかわりを理解する。また、これから社会に出ていく人として安全な社会生活とはなにか知識を身につけ日頃の生活に生かせるようなことを学んでいけるような授業を展開していく。

5 単元及び学習活動に即した評価規準

健康安全への知識・技能	健康安全についての思考力・判断力・表現力等	健康・安全について、主体的に学習する態度
<p>安全な社会づくりには、環境の整備とそれに応じた個人の取組が必要であること。また、交通事故を防止するには、車両の特性の理解、安全な運転や歩行など適切な行動、自他の生命を尊重する態度、交通環境の整備が関わること。交通事故には補償をはじめとした責任が生じることを理解している。</p> <p>適切な応急手当は、傷害や疾病の悪化を軽減できること。応急手当には、正しい手順や方法があること。また、応急手当は、傷害や疾病によって身体が時間の経過とともに損なわれていく場合があることから、速やかに行う必要があることを理解しているとともに、心肺蘇生法などの応急手当を適切に行う技能を身につけている。</p>	<p>安全な社会生活について、安全に関する原則や概念に着目して危険の予測やその回避の方法を考えているとともに、それらを表現している。</p>	<p>安全な社会生活についての学習に主体的に取り組もうとしている。</p>

6 指導と評価の計画

時間	主な学習内容	知識	思・判・表	学び
1	事故の現状と発生要因			
2	<p>安全な社会の形成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・個人の危険予測と危険回避 ・自助と共助 ・環境整備による安全確保 ・全ての人の安全のために 	①		
	交通における安全			

3				
4	応急手当の意義とその基本			
5	日常的な応急手当			
6	心肺蘇生法			

7 本時の展開

① 本時の目標

- ・安全のために必要な個人の行動について例をあげて説明できる。
- ・すべての人たちの安全を確保するために必要な環境整備について例をあげて説明できる。

② 展開

段階	学習活動【 学習内容 】	指導上の留意点 ◇評価
導入 10分	<ul style="list-style-type: none"> ・挨拶 【身の回りの危険な出来事を理解する】 1. 身の回りで起きた事故、事件、災害について何があったか考える。 ・付箋に書く（1人1枚） ・自然災害だけではなく普段の生活にも危険があることを知る。 2. 本時の学習内容について確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・付箋に書いたものを事故と災害などで分別しホワイトボードに貼り付ける。 ○事故や災害などの画像を提示する。 ○付箋には、ボールペンかマッキーペンで書くように指定する。 ・学習の目標や学習内容について板書する。
展開 30分	<p>【実際に災害や事故が起こった時の対応について学ぶ】</p> <div> <p>発問1：災害や事故が起こった時にはどうしますか。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・個人で考える。 ・何人かに意見を発表してもらう。 <div> <p>予想される生徒の反応： 防災グッズを用意する、危険予測、道路整備、自分を守る・逃げる</p> </div> 3. 自分や家族の安全のために必要なことについて説明する。 ・危険予測、危険回避、自助、共助、公助を説明する。 ・発問に対しての回答で自助や危険回避	<ul style="list-style-type: none"> ・発問を画用紙に書いて貼り出す。 ○わからない生徒がいらないか見回りしながら生徒と考える。 ○事例を出し、身近なことで考える。 ・予想される生徒の反応を元に画像を提示する。 ○教科書 p.62 を開き、教科書の資料1を用いて説明する。 ○5つのキーワードにマーカーで線を引くように指導する。 ・中学校の保健体育 p115 の資料3の画像を引用し

<p>などどれに当てはまるか考える。</p> <p>4. 正常性バイアス</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コラムや②をもとに実際の災害時の例を挙げながら説明する。 	<p>参考にする。</p> <p>○大事なポイントを赤文字で書き、板書しながら説明する。</p> <p>○教科書 p.62 のコラムの資料を見るように指示する。</p>
<p>発問 2：身の回りにある環境整備は何があるか考えてみよう。</p>	
<p>【環境整備について知識を得る】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・個人で考える。 ・学習シートに記入する。 <div data-bbox="284 786 762 938"> <p>予想される生徒の反応： 交番、消防署、警察署、病院、道路</p> </div> <p>5. 環境整備による安全確保について例を挙げて説明する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒から出た意見をもとにその環境整備にはどのような効果があるか生徒と考えながら説明を行う。 <p>6. 東京都安全安心まちづくり条例などの法令・条例の整備などを挙げて説明する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国立市、立川市の条例を実際に提示する。 <p>【安心安全な社会生活について知る】</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・発問を画用紙に書いて貼り出す。 <p>○環境整備について例を出しながら見回りを行う。</p> <p>○悩んでいる生徒がいたら隣の人と話し合っても良いことを促す。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・横のグループ 3 人で意見をまとめる。 <p>○横の人がいない生徒やグループが作れていない生徒に対しては指導者がグループを指定する。</p> <p>○犯罪・事故などを防止するために行われていることは事例を出して何か問いかける。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒から出た意見を復唱しホワイトボードに書き出す。 ・防犯カメラ (⑥) や免震構造による対策 (資料 2) を提示する。 <p>○条例があることを生徒に問いかける。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・まちづくりとは、地域の特性に合わせた市民主体の街づくりを推進し、個性的で快適な都市環境を形成するために都道府県や市町村が定める条例があるということ。
<p>発問 3：みんなが安心・安全に暮らすためにはどのような支援が必要か考えよう。</p>	
<ul style="list-style-type: none"> ・自分で考える。 ・グループ (3.4 人) で意見を出し合う。 ・グループごとに意見を出す。 <div data-bbox="256 1756 754 1895"> <p>予想される生徒の反応： 地域で見回りをする、ボランティア</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・グループで出た意見をグループごとに 	<ul style="list-style-type: none"> ・発問を画用紙に書いて貼り出す。 <p>○例を出すなどして生徒が分かりやすいように声かけを行う。また、見回りを行う。</p> <p>◇生徒同士でコミュニケーションを取り、グループ活動を積極的に取り組んで行うことができる。</p> <p>○環境の安心安全だけではなく暮らしやすいために精神面や障害を持った人への支援もあるという</p>

	<p>発表する。</p> <p>7. 精神的な支援が必要な人がいることも挙げそれらの人でも安心安全な社会を送るために様々な取り組みが行われていることを説明する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・障害者への補助や取り組みや支援が必要な人に対する対策を挙げる。 ・ヘルプマーク、電車の優先席、介護給付、自立支援給付、福祉サービス、避難行動要支援者名簿を挙げ説明する。 	<p>ことを気付けるような問いかけを行う。</p> <p>○説明をする際にヘルプマークや優先席などの画像を提示する。</p> <p>◇事故の防止に加え、発生を伴う傷害などを軽減することやそのための社会的な取り組みの基礎的な事を理解し言ったり書き出したりしている。(知識①)</p> <p><A 評価></p> <p>事故や災害について理解し生活とのかかわりについて自分の意見を持ち、それを表現している。</p> <p><C 評価></p> <p>事故や災害などと生活の関わりについて理解が不十分であり、またグループ活動において発言などをしていない。</p> <p><C 評価の生徒に対する手立て></p> <p>関わりについてよく考えて理解し、グループ活動に参加するように促す。</p>
ま と め 10 分	<p>8. 授業の振り返り</p> <p>9. 安全な社会で暮らしていくために自分たちができることは何か考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習シートに記入する。 ・挨拶 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業の中で大切なポイントを簡単にまとめ振り返りを行う。 <p>○授業のまとめを含めて考えていくように促す。</p>

8 板書計画

安全な社会生活	(安全な社会の形成)
危険予測	周囲の状況から事故・事件や災害の危険を予測
危険回避	危険を避けること

9 資料

- ・ p.62 資料 1 生き埋めや閉じ込められた際の救助主体
- ・ p.62 コラム 正常性バイアスと避難行動

- ・ p.63 資料 3 支援が必要な人々への対策
- ・ p.63 資料 2 免震構造による対策
- ・ 中学校保健体育 p.115 資料 3 犯罪防止のためのつながりの画像
- ・ 東日本大震災、交通事故、火災、洪水の画像
- ・ ヘルプマーク、優先席の画像